

教育目標：	進んで学び心身ともに健康で思いやりのある人になる
目指す学校像：	①個性や能力を活かし、「確かな学力」を育む学校 ②思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校 ③心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校
目指す児童・生徒像：	①自ら進んでとりくむことができる生徒 ②心身ともに健康で、互いを尊重できる人間性豊かな生徒 ③個性と創造力が豊かな生徒
目指す教師像：	①創意ある教育活動に意欲的に取り組むことのできる教師 ②生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師 ③高い人権感覚をもち、自ら範となり伝えることのできる「教師」

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
学習指導	基礎的・基本的な学習内容の一層の定着を図る。	授業のユニバーサルデザイン化により、どの生徒に参加しやすく取り組みやすい学習指導。	①教室前面をすっきりとさせ、授業の目標と流れを明示し、生徒の活動を適切に取り入れるなど、生徒の集中力を高める。 ②板書の工夫、ノート指導、小テスト、ワークシート、繰り返し学習、夏季休業中や定期考査前の補習などを行う。 ③数学、英語の少人数指導、保健体育のチームティーチングにより個に応じた指導の充実を図る。	3.3		3		○約90%の生徒は基礎的・基本的な内容はおおむね理解できているものと考える。	○約10%の生徒にとっては、理解が不十分であり、授業中の工夫、課題の出し方、個別指導等を充実させていくことが課題である。
	言語活動を通じた「思考・判断・表現力」の向上と言語文化の理解を図る。	生徒同士が主体的に学びあえる活動により、思考を深め、表現力を高める。	①活動のゴールを明確にし、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら解決が図れるようにする。 ②言語活動、実験・観察、作品作り、まとめ・発表など、課題解決に向けて、生徒同士が共同し、主体的に学べるようにする。 ③読解力、語彙力、表現力を高めるため、毎朝15分間の朝読書を継続的に行う。	3.0		3		○言語活動などを通して、学び合うことで理解を深めているものと考える。	○今後も、言葉や実技を通して表現する力の向上が課題である。その際、読書活動の読解力、情緒力を生かしていく。
	生徒・保護者にとって分かりやすい評価・評定を行い、学習意欲向上を図る。	絶対評価の評価理念に沿って、指導と評価の一体化を図る。	①年度当初にホームページを通して、生徒および保護者に年間指導計画・評価計画を提示する。 ②評価方法の詳細については学期ごとに評価材料の配点等を生徒に周知する。 ③生徒による授業評価アンケートを7月と12月に行い、授業改善に活かす。	3.3		3		○生徒と保護者により回答率分布に違いが見られる。生徒の回答率は授業中における評価の説明も加味しているものと考える。	○今後も、評価材料の提示に加え、授業中における説明も充実させていく。
道徳教育	すべての教育活動を通して道徳教育を推進し、道徳的な心情、判断力、進んで行動する意欲や態度を養う。	進んで参加し、ものごとを多面的に考え、自らの生き方に生かしていける道徳授業を推進する。	①ねらいを明確にした問題解決型授業や体験的活動を取り入れ、生徒が進んで参加できるように工夫する。 ②視覚化を取り入れることにより、どの生徒も課題を共有し、思考過程が分かるように工夫する。 ③全教員が協力して魅力ある教材を開発し、道徳授業の研究を推進していく。	2.9		3		○保護者によるAとBの合計割合が生徒より大きく下回った。生徒の多様性の受容性に課題が見られると考える。	○道徳教育は日常の学校生活と関連させ、生徒の多様性を認め合えるように努める。
生活指導	人権尊重の精神を正しく理解し、人間性豊かな生徒を育てる。	規範意識の育成、豊かな人間関係づくり、自尊感情の形成等	①互いの人格を尊重し、思いやりの気持を言葉や行動で表すことのできる生徒を育てる。上級生が常に模範となる校風の継承。 ②仲間を大切にできるようにする。(1)全員が仲間であり、(2)互いの違いを理解し、認め合う(3)礼儀を守る。 ③人格を尊重し、生徒の良さを認め伸ばし、行為については正しく導く姿勢を大切にします。	3.2		3		○多くの生徒は、穏やかな雰囲気の中で、仲間を大切にしながら学校生活が送れている。	○しかし、一部に心無い言動で相手を傷つけてしまうことがある。全体指導、個別指導を通して改善を図っていく。
	社会の一員として安全で節度ある行動と意欲に満ちた生徒を育てる。	防災教育、安全教育の実施と内容の充実を図るとともに、共生社会や国際社会に関する事象への関心を高める。	①安全教育、防災教育を推進し、自らの命を守り、他者の命も守れるよう、意識を高める。 ②災害時の救命救急と避難所運営の担い手としての技能を身に付ける。また、救命救急法の講習会により心肺蘇生や除細動器についての技能を身に付ける。 ③オリンピック・パラリンピック教育の推進を通じ、広い視野と行動力の育成を図る。あわせて、障害や困難のある方への理解を深める。	3.0		3		○インターネットの危険性について講演会を行い、家庭の協力を得ながら事故防止に努めており、一定の成果が出ていると考える。	○自転車を含めた交通事故防止に向けて危機意識の向上を図っていく必要がある。
	様々な障害・困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	受容・共感的な姿勢のある生徒の内面理解を図り、適切な支援策を講じる。	①身体的および情緒的困難のある生徒への理解を促し、適切な指導・対応を進める。毎週1回のサポーター会議を開催し、関係諸機関とも連携を図る。 ②個々の生徒およびその背景を理解し、心理や福祉の専門家、関係機関との連携により支援を行う。 ③校内支援と不登校復帰支援、いじめ・虐待の予防・早期発見、サポート教室の活用を進める。	2.8		3		○評価Aの割合が少なく、Eの割合が多かった。学校が行っている支援について、より理解普及に努めていく必要があると考える。	○特別支援教育について小冊子を作成するなど、理解普及に努めることが課題である。
進路指導	体験等を通して将来を見据え、適切な進路選択ができる生徒を育てる。	総合的な学習の時間を活用し、三年間系統的に進路指導を行う。	①1学年：職業調べを実施し、職業に関する関心を高め、将来設計のきっかけとする。 ②2学年：3日間の職場体験学習により働くことの意義や社会性を学び、出前授業では進路選択に向けた関心を高める。 ③3学年：1、2学年の経験を基に、自らの進路を切り拓けるよう、指導・支援を行う。						
特別活動	学級の一員としてよりよい学校づくりに参画することで、生徒の社会性を育む。	学級規律と学級組織を基盤とし、その中で個を生かし、個を支援するとともに、行事を通して団結心を育む。	①担任および学年教師との信頼関係を基盤に、より良い人間関係を形成し、生徒の個性が生かせる学年・学級集団をつくる。 ②係り活動を通して、学級の一員としての責任感と自己肯定感を高め、生徒の良さを認め合い、個性を育む。 ③運動会や合唱コンクール、宿泊行事などを通して、学級や学年の団結を育む。	3.3		3		○運動会、校外学習などでの取り組みを通して学級や学年がまとまり、生徒一人一人の良さが伸びてきていると考える。	○合唱コンクールに向けた取り組みを通してさらに生徒の良さを伸ばしていく。
	生徒会の一員としてよりよい学校づくりや地域づくりに参画する生徒を育てる。	生徒が自らの活動の計画を立て、協力して取り組めるよう指導する。	①生徒総会や生徒会朝礼、委員会活動を通して、生徒会としての課題解決や目標達成を生徒自らの手で取り始めるようにする。 ②四つ葉のクローバー運動を通して、「思いやり」「伝統」「正義」「助け合い」の精神を育む。 ③いじめ防止フォーラムをはじめ学校外の行事に参画することで、地域の一員としての自覚を育む。	3.0		3		○委員会活動、あいさつ運動、マルベリー運動などの生徒会活動を通して四中のよき校風が受け継がれていると思われる。	○教師に指示されたことだけではなく、自主的行動力を育てていくことも必要である。

解説

この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4（ほとんど達成した）、3（達成できた部分が多い）、2（達成できない部分が多い）、1（ほとんど達成されていない）となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果（A B C D 4段階）を総合した評価です。A B 合計の数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。

教育目標：	進んで学び心身ともに健康で思いやりのある人になる
目指す学校像：	①個性や能力を活かし、「確かな学力」を育む学校 ②思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校 ③心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校
目指す児童・生徒像：	①自ら進んでとりくむことができる生徒 ②心身ともに健康で、互いを尊重できる人間性豊かな生徒 ③個性と創造力が豊かな生徒
目指す教師像：	①創意ある教育活動に意欲的に取り組むことのできる教師 ②生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師 ③高い人権感覚をもち、自ら範となり伝えることのできる「教師」

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
学習指導	基礎的・基本的な学習内容の一層の定着を図る。	授業のユニバーサルデザイン化により、どの生徒に参加しやすく取り組みやすい学習指導。	①教室前面をすっきりとさせ、授業の目標と流れを明示し、生徒の活動を適切に取り入れるなど、生徒の集中力を高める。 ②板書の工夫、ノート指導、小テスト、ワークシート、繰り返し学習、夏季休業中や定期考査前の補習などを行う。 ③数学、英語の少人数指導、保健体育のチームティーチングにより個に応じた指導の充実を図る。	3.3		3		○約10%の生徒にとって、理解が不十分であり、授業中の工夫、課題の出し方、個別指導等を充実させていくことが課題である。	○本時のねらいが示されている。ただし、その時間にどこまで終わらせるかではなく、「何が分かるようになるのか」を示すことが重要である。
	言語活動を通じた「思考・判断・表現力」の向上と言語文化の理解を図る。	生徒同士が主体的に学びあえる活動により、思考を深め、表現力を高める。	①活動のゴールを明確にし、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用しながら解決が図れるようにする。 ②言語活動、実験・観察、作品作り、まとめ・発表など、課題解決に向けて、生徒同士が共同し、主体的に学べるようにする。 ③読解力、語彙力、表現力を高めるため、毎朝15分間の朝読書を継続的に行う。	3.0		3		○今後、言葉や実技を通して表現する力の向上が課題である。その際、読書活動の読解力、情緒力を生かしていく。	○このような授業を通して、生徒が高校に進学したり、社会に出てから困らないような自己表現力を身につけさせてほしい。
	生徒・保護者にとって分かりやすい評価・評定を行い、学習意欲向上を図る。	絶対評価の評価理念に沿って、指導と評価の一体化を図る。	①年度当初にホームページを通して、生徒および保護者に年間指導計画・評価計画を提示する。 ②評価方法の詳細については学期ごとに評価材料の配点等を生徒に周知する。 ③生徒による授業評価アンケートを7月と12月に行い、授業改善に活かす。	3.3		3		○今後も、評価材料の提示に加え、授業中における説明も充実させていく。	○3年生の2学期の評価が1学期を2学期と同等に加味する方針が国分寺市として示された。年度当初に決定・周知すべきである。
道徳教育	すべての教育活動を通して道徳教育を推進し、道徳的な心情、判断力、進んで行動する意欲や態度を養う。	進んで参加し、ものごとを多面的に考え、自らの生き方に生かしていける道徳授業を推進する。	①ねらいを明確にした問題解決型授業や体験的活動を取り入れ、生徒が進んで参加できるように工夫する。 ②視覚化を取り入れることにより、どの生徒も課題を共有し、思考過程が分かるように工夫する。 ③全教員が協力して魅力ある教材を開発し、道徳授業の研究を推進していく。	2.9		3		○道徳教育は日常の学校生活と関連させ、生徒の多様性を認め合えるように努める。	○道徳の授業は、そのねらいや育てたい生徒像を示し、生徒、保護者、学校とで共通理解を図ることが重要である。
生活指導	人権尊重の精神を正しく理解し、人間性豊かな生徒を育てる。	規範意識の育成、豊かな人間関係づくり、自尊感情の形成等	①互いの人格を尊重し、思いやりの気持を言葉や行動で表すことのできる生徒を育てる。上級生が常に模範となる校風の継承。 ②仲間を大切にできるようにする。(1)全員が仲間であり、(2)互いの違いを理解し、認め合う(3)礼儀を守る。 ③人格を尊重し、生徒の良さを認め伸ばし、行為については正しく導く姿勢を大切にする。	3.2		3		○しかし、一部に心無い言動で相手を傷つけてしまうことがある。全体指導、個別指導を通して改善を図っていく。	○自己主張を控え、周囲に合わせ安心感を得ている生徒が多いと感じる。思いやりだけでなく、自分の考えをきちんと伝えることも大切である。
	社会の一員として安全で節度ある行動と意欲に満ちた生徒を育てる。	防災教育、安全教育の実施と内容の充実を図るとともに、共生社会や国際社会に関する事象への関心を高める。	①安全教育、防災教育を推進し、自らの命を守り、他者の命も守れるよう、意識を高める。 ②災害時の救命救急と避難所運営の担い手としての技能を身に付ける。また、救命救急法の講習会により心肺蘇生や除細動器についての技能を身に付ける。 ③オリンピック・パラリンピック教育の推進を通じ、広い視野と行動力の育成を図る。あわせて、障害や困難のある方への理解を深める。	3.0		3		○自転車を含めた交通事故防止について危機意識の向上を図っていく必要がある。	○今後も事故防止に一層努めてほしい。
	様々な障害・困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	受容・共感的な姿勢で生徒の内面理解を図り、適切な支援策を講じる。	①身体的および情緒的困難のある生徒への理解を促し、適切な指導・対応を進める。毎週1回のサポーター会議を開催し、関係諸機関とも連携を図る。 ②個々の生徒およびその背景を理解し、心理や福祉の専門家、関係機関との連携により支援を行う。 ③校内支援と不登校復帰支援、いじめ・虐待の予防・早期発見、サポート教室の活用を進める。	2.8		3		○特別支援教育について小冊子を作成するなど、理解普及に努めることが課題である。	○より多くの生徒・保護者が四中の特別支援教育を理解してもらえよう、努めてほしい。
進路指導	体験等を通して将来を見据え、適切な進路選択ができる生徒を育てる。	総合的な学習の時間を活用し、三年間系統的に進路指導を行う。	①1学年：職業調べを実施し、職業に関する関心を高め、将来設計のきっかけとする。 ②2学年：3日間の職場体験学習により働くことの意義や社会性を学び、出前授業では進路選択に向けた関心を高める。 ③3学年：1、2学年の経験を基に、自らの進路を切り拓けるよう、指導・支援を行う。						
特別活動	学級の一員としてよりよい学校づくりに参画することで、生徒の社会性を育む。	学級規律と学級組織を基盤とし、その中で個を生かし、個を支援するとともに、行事を通して団結心を育む。	①担任および学年教師との信頼関係を基盤に、より良い人間関係を形成し、生徒の個性が生かせる学年・学級集団をつくる。 ②係り活動を通して、学級の一員としての責任感と自己肯定感を高め、生徒の良さを認め合い、個性を育む。 ③運動会や合唱コンクール、宿泊行事などを通して、学級や学年の団結を育む。	3.3		3		○合唱コンクールに向けた取り組みを通してさらに生徒の良さを伸ばしていく。	○合唱コンクールを楽しみにしています。
	生徒会の一員としてよりよい学校づくりや地域づくりに参画する生徒を育てる。	生徒が自らの活動の計画を立て、協力して取り組めるよう指導する。	①生徒総会や生徒会朝礼、委員会活動を通して、生徒会としての課題解決や目標達成を生徒自らの手で取り始めるようにする。 ②四つ葉のクローバー運動を通して、「思いやり」「伝統」「正義」「助け合い」の精神を育む。 ③いじめ防止フォーラムをはじめ学校外の行事に参画することで、地域の一員としての自覚を育む。	3.0		3		○教師に指示されたことだけでなく、自主的行動力を育てていくことも必要である。	○あたらし時代を切り開いていける行動力を身につけさせていくことが必要である。

解説

この「学校関係者評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、学校側が課題を提示し、学校関係者（学校運営協議会委員）からの評価（意見）をまとめたものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4（ほとんど達成した）、3（達成できた部分が多い）、2（達成できない部分が多い）、1（ほとんど達成されていない）となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果（A B C D 4段階）を総合した評価です。A B 合計の数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。